

広大から海外へ留学している若手からの便り

National Institutes of Health (NIH) 留学便り

内田 宅郎 大学病院 消化器診療科 消化器・代謝内科 助教

私は現在、アメリカ合衆国のワシントンDCに近いベセスダという街に本部を構えるNIHに留学しています。Institutesという名前の通り、NIHは複数の研究所の集合体で、私が所属しているのはNational Institute of Diabetes and Digestive and Kidney DiseasesのLiver Diseases Branchです。Branch内には6つのSectionが存在していて、私はLiver Diseases Virology Sectionで肝炎ウイルスに関連した研究を行っています。ボスのDr. T Jake LiangはBranchのチーフを兼任していて、肝臓領域、特にウイルス性肝炎の領域では世界的に高名な先生です。

NIHには、世界中から若手の研究者がやってきてキャリアアップを目指しています。ミーティングでは積極的に議論が交わされ、皆よく勉強しています。また、住んでいる地域はとても住みやすく、子供ものびのびと成長しています。

公私ともに充実した時間を過ごすことができていましたが、COVID-19の世界的な流行に伴い、自宅待機命令やNIHの閉鎖も経験しました。流行前の生活に戻ることはまだ難しそうですが、2020年8月現在はNIHも段階的に再開しており、限られた時間の中で研究を進めているといった状況です。未曾有のパンデミックをアメリカで過ごすことに最初は不安もありましたが、家族や友人と支え合い、楽しみを見つけながら暮らしています。

最後に、留学の機会を与えて頂いた消化器・代謝内科の茶山 一彰教授に心より感謝を申し上げます。



Liver Diseases Branch集合写真(2019年9月撮影、筆者は最後列右から7番目)

編集後記

本年は、新型コロナウイルス感染症により、我々の生活に様々な影響がありました。皆様方におかれましては、大学病院における診療体制、学部教育、研究科における研究活動など、これまでとは異なった新たな対応に追われた一年になったことと思います。新たな生活様式を構築し、また、それを継続したうえで、広島大学の教育力、及び研究力を更に高めることが新型コロナウイルス感染症の収束につながるよう、努力するの必要を感じています。皆で一丸となり、この冬を乗り越え、新たな春を迎えましょう。

ご多忙な状況下において、BioMed News第4号を発刊するにあたり、ご協力いただきました執筆者、編集者、ならびに広報委員の先生方に心から感謝いたします。本号では新任教授のご挨拶、研究科の活動、座右の銘、優れた論文の紹介、研究最前線などを掲載しております。是非、ご愛読をお願いいたします。

2020年11月 広報委員 藤田 直人

2020年（令和2年）11月発行

編集発行：広島大学大学院医系科学研究科広報委員会

住所：〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号

電話：(082) 257-5013（霞地区運営支援部総務グループ）

E-mail：kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

URL：https://www.hiroshima-u.ac.jp/bhs